

## 令和3年度「学校評価」結果について

このほど、保護者アンケートや生徒アンケート、また、学校運営協議会における評価等をもとに、以下の通り学校評価を行いましたので、その結果をお知らせいたします。

この結果を踏まえ、来年度も保護者・地域の皆様に信頼され、家庭・地域とともにある学校づくりに取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

| ○自己評価   |  |                                    |      | ○学校関係者評価  |  |
|---|--|------------------------------------|------|---|--|
| 領域  | 評価の観点  | 評価項目                               | 達成状況 | 学校の取り組み状況と改善の方策   |  |
| 学校運営  | 学校経営<br>安全管理   | ・新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた安心安全な学校づくり     | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行をはじめ、校外で行う行事については取扱い業者と連携して感染防止対策を施し、目的地や行程を工夫しながら、3年間の継続的な指導の一環として実施した。</li> <li>・ランチルーム内にアクリル板を設置したり、状況に応じて喫食場所を各教室に変えたりしながら、安心安全な給食指導に努めた。</li> <li>・今後も取組の優先順位を明確にして、安心安全な学校運営に努めたい。</li> </ul> | 自己評価の各観点に対する評価   |
|   | 生徒指導   | ・生徒の内面理解に基づく組織的かつ人権基盤の生徒指導         | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回生徒支援委員会を開催する中で、生徒の状態について情報を共有し、すべての教職員で生徒の課題解決に向けた支援をすすめた。</li> <li>・指導にあたっては、現象面の解決だけでなく、その原因となった生徒の内面理解に努めた。</li> <li>・不登校傾向の生徒に対しては、保護者をはじめ関係機関と連携した支援をすすめた。今後も、進路保障を見据え、継続して支援をすすめる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあつて、行事の大切さを改めて感じている。なかでも校外で行う活動(行事)については、「どこで行うか」ではなく、「何をするのか」を大切にすすめてほしい。とにかく、機会をつくってほしい。</li> <li>・学校ではコロナ対策をはじめとする安全安心な環境づくりに尽力されている。取組の具体をもっと保護者や地域に発信されるとよいと感じている。</li> </ul>  |
|   | 教職員の育成<br>働き方改革  | ・キャリアステージに応じた研修の推進<br>・主体的かつ組織的な取組 | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員がそれぞれのキャリアステージに応じた校務を担当し、その遂行を通して力量向上に努めた。(OJTを軸とした研修の推進)</li> <li>・労働安全衛生委員会が中心となった計画的年休取得に係る取組をすすめた。平均取得日数は昨年の5日より大幅に増え、9.5日となった。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響もあつてか、不登校傾向の生徒が増えていると聞き、心配している。学校では、教職員が協力して対応したり、保護者や医療機関等と連携したりし、取り組まれている。地域住民の中にも、民生委員・児童委員のように力になれるものも少なからずいるので、遠慮なく声をかけてほしい。</li> <li>・コロナ禍で人と触れ合う機会が減っている。異年齢の人との交流も機会をつくって取り組んでみるのもよいと思う。</li> </ul>                            |
| 教育課程  | 指導方法の工夫改善  | ・生徒の主体的な学びを引き出す学習指導の充実             | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29から継続して教科の枠を超えた授業研究に取り組み、兵庫教育大学加藤久恵准教授の指導を受けながら授業改善に努めた。</li> <li>・須磨学園高校の取組を生かし、生徒個々の目標や力量に合わせた学習スタイルの確立に向け、1年生で先行実施した。今後は、対象学年を拡大していきたい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が元気な学校は、生徒たちも元気な学校になると思う。先生方にはぜひとも元気であつてほしい。</li> </ul>   |
|   | 道徳教育   | ・中心発問や問い返しの工夫を通して道徳的価値観を深める授業づくり   | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県教委の指定研究に取り組む中で、特別の教科「道徳」に求められる力を育む授業づくりをすすめた。</li> <li>・兵庫教育大学谷田増幸教授の指導を受けながら、効果的な中心発問や問い返しの在り方を研究し、道徳的価値観を深める授業づくりにつなげた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動にあつては、自分の考えや思いを表現する際に個人差があることから、発表することだけを大切にすることはなく、生徒一人ひとりのできることをしっかり見取ってやってほしい。</li> <li>・一人につき1台配付されたタブレットを効果的に使って、一人ひとりのスタイルに合わせた学習支援をすすめてほしい。</li> </ul>  |
| 課題教育  | 人権教育   | ・人権を基盤とした教育活動の推進                   | B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生き方を育む校区事業を活用し、人権学習グループ「たちばな学級」を運営した。生徒29人が参加し、同和、平和等を課題として熱心に学習した。</li> <li>・いじめや暴力を許さないという意識は高いが、そのための行動には、躊躇する生徒もいるようである。正しいと考えたことを、自信を持って行動できる生徒の育成に取り組んでいきたい。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは大人の姿をよく見ている。あいさつにしても手伝いにしても、大人がしていると子どもも自然とするようになる。道徳的な価値を教えるにあつては、私たち大人も襟を正したいと思う。</li> <li>・人権を大切にされた学校づくりを、これからも続けていってほしい。</li> <li>・考えたことを行動に移すことは、大人でも簡単なことではないと思う。正しいと思うことに自信をもってすすんでいける大人になるよう指導してほしい。私たち大人も、範を示したい。</li> </ul> |
| ※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育<br>※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る) |  |                                    |      | 自己評価の実施方法についての評価  |  |
| 領域  | 観点例  |                                    |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者にアンケートをとって、その客観的な事実(数値)に基づいて判断するのは妥当であると考える。</li> <li>・年度はじめに教職員に評価アンケートを示して、取組の指標を明らかにしながら学校運営をしていくのは大切であると感じている。ぜひ、そのようにすすめてほしい。</li> </ul>   |  |
| 学校運営  | 学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等 |                                    |      |   |  |
| 教育課程  | 学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等                          |                                    |      |   |  |
| 課題教育  | 特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等                     |                                    |      |   |  |
| ※達成状況 A: 優れている B: おおむね良好 C: やや改善 D: 要改善                 |  |                                    |      | 学校関係者評価のまとめ   |  |

### 学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- 地域と連携してコロナ対策、不登校対応等に取り組む安心・安全な学校づくり
- 生徒一人ひとりが自分の思いを発信できる授業づくり
- 教職員が生き生きと働く職場づくり
- 地域資源を生かしたアントレプレナーシップ教育の推進
- 小中連携も視野に入れた新学校開校に向けた準備の推進

令和 4 年 3 月 14 日

学校名 丹波市立和田中学校  
 校長名 岸 田 孝 広

- ・小学校では、「たんばふるさと学」に取り組む中で、地域と連携する機会が多い。中学校でも、地域資源「トウキ」を利用した学習を展開されるとよいのではないかと。
- ・子どもたちは(小学生・中学生とも)、地域の中でもよくあいさつしてくれる。道路の横断の際に停車した車に対して頭を下げたり、登下校時に出会ったときに大きな声で「おはようございます」「かえりました」と言ったりする等、元気な声を聞くと私たちも元気になる。これは小中学校で継続した指導の成果であると考えられる。保護者とも連携しながら、今後も続けてほしい。
- ・中学校はあと1年で閉校し、令和5年4月から新しい学校になる。新中学校の開校に向けた準備をすすめられているようだが、その中で、小中学校が合同でできるような取組をすることができればよいと思う。